

研究・調査報告書

報告書番号	担当
263	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and cardiovascular mortality among U.S. adults, 1987 to 2002. アメリカ合衆国成人における飲酒量と循環器疾患死亡率：1987-2002年	
執筆者	
Mukamal KJ, Chen CM, Rao SR, Breslow RA.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Am Coll Cardiol. 2010 Mar 30;55(13):1328-35. PMID: 20338493	
キーワード	
飲酒、循環器疾患、アメリカ合衆国、コホート研究	
要旨	
目的： コホート研究では飲酒が循環器疾患リスクを低くすることが報告されているが、アメリカ合衆国国民を代表するサンプルの大規模かつ詳細な前向き研究では確認されていない。本研究はアメリカ合衆国国民において飲酒量と循環器疾患死亡との関連を明らかにする。	
方法： 米国成人の代表サンプルにおける毎年の調査である、国民健康質問調査 (National Health Interview Survey) の 1987-2000 年の 9 回の調査を分析した。飲酒の量、頻度、内容および問題飲酒を調査した。死亡について、2002 年まで、National Death Index とのリンクによって確認した。相対危険は、循環器疾患死亡の過重・多変量調整ハザード比のランダム効果メタ分析から算出した。	
結果： 少量および中等量の飲酒は循環器疾患死亡リスクと負の関連を示した。相対危険は、生涯非飲酒者に比べ、生涯機会飲酒者で 0.95 (95%CI: 0.88-1.02)、過去飲酒者で 1.02 (95%CI: 0.94-1.11)、少量飲酒者で 0.69 (95%CI: 0.59-0.82)、中等量飲酒者で 0.62 (95%CI: 0.50-0.77)、多量飲酒者で 0.95 (95%CI: 0.82-1.10)であった。リスク低下の大きさは、性、年齢、ベースラインの健康状態のサブグループで同程度であった。飲酒パターンとリスクとの関連は認められなかったが、1日 3 drink 以上の飲酒は 2 drink に比べ一定して高いリスクを示した。	
結論： 米国成人を代表する 9 集団サンプルにおいて、少量あるいは中等量の飲酒は生涯非飲酒者に比べて低い循環器疾患死亡リスクを示したが、適量を超える飲酒によるリスクは低くなかった。	